

第6次上富良野町総合計画基本計画調査特別委員会調査結果報告書

本特別委員会の事務調査として、調査した事件について、調査の経過及び結果を会議規則第77条の規定により報告する。

平成30年11月2日

上富良野町議会議長 西村昭教様

第6次上富良野町総合計画基本計画調査特別委員会
委員長 村上和子

記

1 事件名 第6次上富良野町総合計画基本計画

2 調査の経過

平成30年6月19日開会の第2回定例会において、第6次上富良野町総合計画基本構想が上程され、質疑・討論の結果、可決されたが、基本計画策定にあたっては議会の慎重審議が必要として、第6次上富良野町総合計画基本計画調査特別委員会の設置を議員発議により可決し、設置した。その後、調査特別委員会を下記のとおり、9回開催し、その内容等を調査、検討、審議した。

- ・第1回 6月20日 委員長、副委員長の選出
- ・第2回 7月31日 分科会の設置と調査項目について、今後の調査日程について
- ・第3回 8月8日 第5次上富良野町総合計画の評価・検証について
- ・第4回 8月29日 第6次上富良野町総合計画(素案)について
- ・第5回 9月4日 第2分科会(分科会の調査方法について、今後の日程について)
9月5日 第1分科会(分科会の調査方法について、今後の日程について)
- ・第6回 9月19日 第1分科会及び第2分科会(前期基本計画(案)の調査について)
- ・第7回 10月19日 2分科会の意見精査について、所管課への確認事項の精査について
- ・第8回 10月22日 所管課への確認事項のヒアリング
- ・第9回 11月2日 意見書(案)について、報告書(案)について
=同日、議長へ報告書を提出=
=同日、議長から町長へ意見書を提出=

3 委員名簿

| | |
|------|------|
| 委員長 | 村上和子 |
| 副委員長 | 岡本康裕 |

| | | | |
|-------|---------|-------|---------|
| 第1分科長 | 北 條 隆 男 | 第2分科長 | 荒 生 博 一 |
| 委 員 | 長谷川 徳 行 | 委 員 | 中 澤 良 隆 |
| 〃 | 高 松 克 年 | 〃 | 佐 川 典 子 |
| 〃 | 米 沢 義 英 | 〃 | 今 村 辰 義 |
| 〃 | 中 瀬 実 | 〃 | 金 子 益 三 |
| | | 〃 | 竹 山 正 一 |

4 調査の報告

(1) 基本計画に関する意見について

今後のまちづくりの方向性については、妥当と判断するものの、第5次上富良野町総合計画の後期から本町の抱える重要課題解決に関する施策項目について、明確な方向性や推進体制を示されるよう、特に重視していただきたい事項を取りまとめた。

なお、公共施設の整備にあたっては、老朽化に伴う整備改修等を前期基本計画で明確に位置づけ、優先順位、有利な財源の確保とともに、財政見通しを明確にして、新たな暮らし輝き安心で安全なまちづくりに向けていくよう、以下の点を町長へ意見として提言されたい。

ア) 人口減少対策について

総合計画総論で最重要課題とされている「町一体となった人口減少の対策」、また、基本構想の「人口の目標値 10,660 人」に向けて、分野別目標の効果的な施策を実行されたい。

イ) 成果指標について

成果指標（ベンチマーク）は、第5次総合計画基本計画の進捗状況及び平成29年度の実績値を踏まえて設定されているが、第6次総合計画基本計画に掲げられた主要施策との整合性やその成果を測る数値であることから、指標名・指標値の妥当性とともに、今後の人口の推移（前期基本計画の成果指標でH35の人口により目標値を設定しているもの）や計画の進行管理も踏まえた視点で検証されたい。

また、継続している若しくは平成30年度に更新する個別計画の成果指標との整合を図られたい。

ウ) 町立病院の改築等の整備促進について

町立病院については、築38年を経過し、施設・設備の老朽化が進んでおり、また、防災・防火体制についても平成37年6月末までにスプリンクラー設置が義務付けられている。町立病院は、病床を有する町内唯一の病院、また、救急指定病院でもあることから、これらを含めた施設改修について、前期基本計画の早期に明確な方向性を示す必要があり、介護療養型老人保健施設、特別養護老人ホームとの医療と介護の連携を含めた運営のあり方を早急に検討され、一定の方向性を示されたい。

エ) 拠点施設について

本町の産業活性化に向け前期基本計画（案）に位置付けられている拠点施設については、あり方を検討し、明確な方向性を示されたい。

(2) その他の主な意見について

- ・防災意識の高揚のため、教育・啓蒙を含め様々な対策を講じられたい。
- ・防災の観点からも上下水道や公園、公共施設等の整備更新について、計画的に執行されたい。
- ・少子高齢化・人口減少の進行、認知症高齢者の増大など、2025年問題をも見すえた各種施策等を展開する中で、保健・医療・福祉の連携と各種サービスの充実を図られたい。
- ・地域福祉力を強化し多様な生活支援の充実のため、社会福祉協議会はもとより、町内の地域福祉関連団体、福祉ボランティア団体、NPO法人等の人材育成・組織力強化を、町が主体的に実施するよう努められたい。
- ・町民アンケート結果からも、今後優先的に取り組むべき施策として、各産業振興が上位に位置づけられていることから、農林業、商工業、観光業の具体的な施策や後継者対策など各個別計画に位置付け実施されるもの以外に、個別計画で位置付けが難しいと思われる産業連携について、基本計画での位置付けについて検討されたい。
- ・商工業については、賑わいが失われているので、商業集積や地域コミュニティを形成する商店街機能の再生を図るなど、雇用創出、交流・定住人口の拡大に努められたい。
- ・観光については、観光入込客数の減少が顕著であり、新たな魅力づくりや十勝岳ジオパーク構想の推進などを活用して誘客を図り、本町の経済活性化に努められたい。
- ・公共交通の維持・充実について、「予約型乗合タクシー」を高齢者や障害者の公共交通手段確保のため運行しており、基本計画に盛り込むことを検討されたい。

5 まとめ

平成30年6月20日の特別委員会設置から約4ヵ月間という短期間であったが、上富良野町の今後の進むべき方向性について、調査効率の点から常任委員会を基本とした分科会も設けて、調査・検討を行った。

8月に第5次総合計画の評価・検証及び素案の概要説明を受け、素案の段階から調査をはじめ、9月に提供された第6次総合計画前期基本計画（案）について、分科会で各常任委員会所管事務の章ごとに分担して、案に対する意見や個別計画に反映させるべき意見の取りまとめ、主要施策の所管課への確認と質疑応答などを行った。

特別委員会の調査の中で、町立病院、ラベンダーハイツを中心とした介護医療複合施設の建設や観光・交流の拠点施設に関する意見があり、これらの提言等をまとめ、別添意見書（案）として添付するので、町長に対して意見書を提出されたい。

今後、第6次上富良野町総合計画基本計画を長期的なビジョンとして、本町のまちづくりの方向性を示すとともに、実行的な町政運営がなされ、基本構想に掲げる3つの視点、将来像、人口目標が実現されることを願い、調査の報告とする。

第 6 次 上 富 良 野 町 総 合 計 画
基本計画に関する意見書

平成 3 0 年 1 1 月 2 日

上富良野町議会

第6次上富良野町総合計画基本計画に関する意見書

現在の第5次上富良野町総合計画は、平成21年3月に平成21年度から平成30年度までの10か年計画として、「四季彩のまち・かみふらの～風土に映える暮らしのデザイン～」を将来像と定め、さまざまな施策が展開されてきました。

この間、人口減少や少子高齢化、各分野の人手不足問題、想定を超えた自然災害への対応、世界的な金融不安など社会経済情勢が大きく変化するとともに、地方創生や人口ビジョンなど地方自治体への行財政の運営の見直しが求められた10年でありました。

このようなことから、本年策定される第6次上富良野町総合計画は、平成30年6月20日、平成30年第2回定例会で基本構想を可決し、同日、上富良野町総合計画基本計画調査特別委員会を設置し、基本計画について、議会として調査いたしました。

第6次上富良野町総合計画前期基本計画(案)「かみふ未来ビジョン～暮らし輝き交流あふれる 四季彩のまち・かみふらの～」の調査において、今後のまちづくりの方向性については、妥当と判断するものの、第5次上富良野町総合計画の後期から本町の抱える重要課題解決に関する施策項目について、明確な方向性や推進体制を示されるよう、特に重視していただきたい事項を取りまとめました。

なお、公共施設の整備にあたっては、老朽化に伴う整備改修等を前期基本計画で明確に位置づけ、優先順位、有利な財源の確保とともに、財政見通しを明確にして、新たな暮らし輝き安心で安全なまちづくりに向けていただきたいと存じます。

つきましては、第6次上富良野町総合計画基本計画調査特別委員会の調査を踏まえ、議会として上富良野町総合計画前期基本計画策定に向けて、意見として提言いたしますので、本意見の趣旨を十分に理解され、基本計画を策定されることを願うものであります。

平成30年11月2日

上富良野町議会
議長 西村 昭 教

1 人口減少対策について

総合計画総論で最重要課題とされている「町一体となった人口減少の対策」、また、基本構想の「人口の目標値 10,660 人」に向けて、分野別目標の効果的な施策を実行されたい。

2 成果指標について

成果指標（ベンチマーク）は、第 5 次総合計画基本計画の進捗状況及び平成 29 年度の実績値を踏まえて設定されているが、第 6 次総合計画基本計画に掲げられた主要施策との整合性やその成果を測る数値であることから、指標名・指標値の妥当性ととも、今後の人口の推移（前期基本計画の成果指標で H35 の人口により目標値を設定しているもの）や計画の進行管理も踏まえた視点で検証されたい。

また、継続している若しくは平成 30 年度に更新する個別計画の成果指標との整合を図られたい。

3 町立病院の改築等の整備促進について

町立病院については、築 38 年を経過し、施設・設備の老朽化が進んでおり、また、防災・防火体制についても平成 37 年 6 月末までにスプリンクラー設置が義務付けられている。町立病院は、病床を有する町内唯一の病院、また、救急指定病院でもあることから、これらを含めた施設改修について、前期基本計画の早期に明確な方向性を示す必要があり、介護療養型老人保健施設、特別養護老人ホームとの医療と介護の連携を含めた運営のあり方を早急に検討され、一定の方向性を示されたい。

4 拠点施設について

本町の産業活性化に向け前期基本計画（案）に位置付けられている拠点施設については、あり方を検討し、明確な方向性を示されたい。

【前期基本計画に対する主な意見】

- ・防災意識の高揚のため、教育・啓蒙を含め様々な対策を講じられたい。
- ・防災の観点からも上下水道や公園、公共施設等の整備更新について、計画的に執行されたい。
- ・少子高齢化・人口減少の進行、認知症高齢者の増大など、2025年問題をも見すえた各種施策等を展開する中で、保健・医療・福祉の連携と各種サービスの充実を図られたい。
- ・地域福祉力を強化し多様な生活支援の充実のため、社会福祉協議会はもとより、町内の地域福祉関連団体、福祉ボランティア団体、NPO法人等の人材育成・組織力強化を、町が主体的に実施するよう努められたい。
- ・町民アンケート結果からも、今後優先的に取り組むべき施策として、各産業振興が上位に位置づけられていることから、農林業、商工業、観光業の具体的な施策や後継者対策など各個別計画に位置付け実施されるもの以外に、個別計画で位置付けが難しいと思われる産業連携について、基本計画での位置付けについて検討されたい。
- ・商工業については、賑わいが失われているので、商業集積や地域コミュニティを形成する商店街機能の再生を図るなど、雇用創出、交流・定住人口の拡大に努められたい。
- ・観光については、観光入込客数の減少が顕著であり、新たな魅力づくりや十勝岳ジオパーク構想の推進などを活用して誘客を図り、本町の経済活性化に努められたい。
- ・公共交通の維持・充実について、「予約型乗合タクシー」を高齢者や障害者の公共交通手段確保のため運行しており、基本計画に盛り込むことを検討されたい。